

慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1990
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.63, No.12 (1990. 12) ,p.5- 6
Abstract	
Notes	金子芳雄教授退職記念号
Genre	Article
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19901228-0005

序

金子芳雄先生は関東学園大学の招きにより同大学の法学部新設に尽力され、初代学部長に就任のため、平成二年三月をもって選定年で御退職になった。

金子先生は第二次大戦直後戦火で荒廃した慶應義塾に奉職され、以来実に四十年の長きに亘り、研究・教育と学校行政に精根を傾けられ、義塾の復興およびその後の発展と歩みを共にされた。金子先生は塾法律学科の憲法・行政法の基礎を築かれた浅井清先生が初代人事院総裁に就任されたため、その後を埋めるべく行政法を専攻された。特に、イギリス行政の分野において行政訴訟や国家賠償さらには行政裁量をめぐる基礎理論を研究され、数多くの学術論文を発表された。また、住民訴訟についてのアメリカ法や我国の判例研究をまとめられた『住民訴訟の諸問題』（慶應義塾大学法学研究会叢書、昭和六十年）には、昭和六十一年、義塾賞が授与された。租税法学会、日本公法学会の理事も歴任され、我国行政法学の発展に寄与されるとともに、多くの後進を育成された。

また、先生は昭和四十八年より実に十五年間に亘って慶應義塾体育会理事をお務めになり、義塾の体育会活動の指導にあたられ、数々の名選手を育て、体育会学生の敬慕の念を一身に集められておられた。先生は海軍兵学校在学中に第二次大戦の終結を迎えられるという生粋のネイビーであった。その粋でスマートなダンディーぶりは慶應義塾在

任中にいよいよ磨きがかけられたように思う。

関東学園の松平理事長と慶應義塾大学の名誉教授で関東学園大学学長の千種義人先生の懇請に依えての金子先生の御転身はまことにスマートであざやかである。先生の御努力によって、この関東学園大学の法学部が北関東における法学研究の中心となることを期待するとともに、先生の御指導の下に育った後進の寄稿するこの論文集を捧げることによって、多年の慶應義塾と慶應義塾大学法学部に対する先生の御貢献に感謝の意を表したい。

平成二年九月

法学部長 堀 江 湛